

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	初生子どもの家 てんし			
○保護者評価実施期間	2025年9月5日		～	2025年9月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 11日		～	2025年 9月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名(てんし・第2てんし合同)	(回答者数)	10名(てんし・第2てんし合同)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人に合わせた多様なプログラムを提供し、柔軟に対応すること。	指導員が連携して子どもの様子を観察し、支援方法を随時相談・見直しすることを、心がけている。 子どもの状態や、ペースに寄り添い、最適な支援が送れるように努めている。	更なる向上を目指した活動。 一人一人を成長させていくために細かな目標設定をしている。
2	子どもの保護者からの相談や申し入れについての対応。きちんと向き合う。	子どもたちや保護者からの声に耳を傾ける。 職員で情報の共有をし、相手の申し入れに対して、最善を尽くせるように努めている。 お迎え時に、家庭での子どもの様子や、困りごとなど密なコミュニケーションを取ることを心がけている。	解決方法のノウハウ。 職員のスキルアップのための研修(対応の仕方や知識について)
3	活動が固定化されないように工夫している。	日々のミーティングの中で前回の様子や継続して活動した方がよいこと、やり方を変えた方がよいことの話し合いをする。また子どもの当日の様子も報告し合い、次回に向けてより良い方法を考え続けている。	活動内容の充実。 新しいものを取り入れる知識や情報収集 研修を充実させ、職員のスキルアップをより図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の繋がりや支援やサービスの提供。	利用者が広域になり、集まる機会を設けるのが難しいため、保護者会となると負担が大きい。 職員の勤務日との日程調整が難しい。	土曜日や祝日などをうまく利用し、家族(親子)で参加できるようなイベントや活動を検討していきたい。
2	地域との交流機会が不足している。	利用児の年齢層の幅、下校時間のバラツキ、保護者のお迎え時間などにより、放課後児童会や地域の子どもの交流する機会を活動として提供することが難しい。	保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討していきたい。(長期休みを利用し、外部との交流を試みる。)
3	建物の構造、耐震性	築年数が経っている。老朽化が進んでいる。	定期的な点検。補強工事。リフォームなど